

(写)

令和4年11月25日

鎌倉市長 松尾 崇 様

図書館とともだち・鎌倉
代表 和田安弘鎌倉市制100周年記念事業として
『新 鎌倉市史』を編纂することについて（要望）

日頃より鎌倉市行政にご尽力いただき、ありがとうございます。

鎌倉の街では、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」放映による影響もあり住民だけでなく国内外からの観光客で街が賑わい、喜ばしいことと存じます。

歴史文化都市・鎌倉の魅力は、先人たちの努力や研鑽によって培われていることを改めて認識するとともに、より良い街づくりに尽力し次の世代につないでいくことは、現在の鎌倉に住まう私たち市民一人ひとりの責任と考えます。

鎌倉市では、昭和34年、市制20周年記念事業として『鎌倉市史』全六巻（総説編、史料編第一、同 第二、同 第三・第四、考古編、社寺編）が発行されました。委嘱された16名の編纂委員と4名の編纂員、計20名により足かけ9年にわたって編まれたこの『鎌倉市史』は、発行当初より高い評価を得て、昭和53年までに4版を重ね、現在の鎌倉研究においても必見の書とされています。

その後も、市制施行30周年（昭和44年）記念事業として『図説 鎌倉回顧』『市勢要覧 鎌倉』、45周年（昭和60年）に『近世近代紀行地誌編』、50周年（平成元年）に『図説 鎌倉年表』が発行されました。

さらに、昭和55年には、「鎌倉開府八百年記念事業」として『鎌倉市史』続編 全七巻（『近世近代紀行地誌編』（既刊）、近世史料編第一、同 第二、近代史料編第一、同 第二、近世通史編、近代通史編）刊行が企図され、鎌倉市史編さん委員会が再発足しました。

以来、昭和60年より刊行が続き平成6年にこの歴史的事業を完結しています。

しかし、市制60周年（平成11年）、70周年（平成21年）、80周年（令和元年）にあつて、その後の市史編纂は実施されていません。その間には諸研究の発展による新たな発見や加筆修正すべき事象が多くありましたが、全く手を加えられることなく過ぎてきました。

そして、まもなく市制100周年（令和21年）という歴史的なけじめの年を迎えようとしています。しかし現在においても、50周年以降の市史編纂の動きが全く見えておらず、史料蒐集の重要性や編纂委員委嘱の必要性などを考慮すると懸念は深くなるばかりです。

世界的な歴史文化都市・鎌倉として果たすべき『新 鎌倉市史』編纂にむけ、一刻も早にご英断をいただきたく、宜しくお願い申し上げます。

なお、ご回答は文書にて頂けますようお願い致します。

以上